

## ■考察: SSn-N の日本流使い方

2007/06/09 JAPRSX/JF1AJE

米国のSSn-Nは州の端の局が自州内にパケットを拡散させたいが、隣接他州には拡散させないという目的の為に用いるものです。(米国ではRFは州内拡散が基本で州外へはUHF等のバックボーンでリンクするというネットワーク原則になっている。隣に迷惑をかけないという事です。)

SSn-Nは「広域デジ用」で、州内広域デジのUIFLOODで機能させます。狭中域局に機能させると、UIFLOODによる輻輳が発生する恐れが有るためです。

一方日本では限定域内にのみAPRSパケットを拡散させるという考え方は今までありませんでした。「NewParadigm」の面白い機能として「SSn-Nを“地方“や“都道府県”等の限定域内伝送用」として機能させる事に関する考察です。

最初に考えたのは米国の州ほど広域ではないが、ある程度広域の”総合通信局管轄域”単位のパケット拡散についてです。この考えに基づき既に鹿野山(山頂広域デジピーター)には「SS=KA=関東」を仮設定しています。

しかし関東総合通信局管内の広域、狭域デジピーター共にSS=KAを設定するのは暴挙であることが直ぐに判明しました。関東内は中狭域デジピーターが非常に多く存在するので、すべてSS=KAとすると、“KA2-2”で発信した場合は“WIDE1-1, WIDE1-1”と発信したのと同じ現象が発生し、確実に輻輳が発生します。また、関東総合通信局管内の広域に対して同報したいようなシチュエーションはあまりなさそうです。むしろ関東の広域局(筑波山、赤城山、遠笠山、鹿野山)にKAを使用し、狭中域局にはTK(東京)、KN(神奈川)などの都道府県をパラメーターとしたSSを設定したほうが使い道がありそうと考えました。

- (1) トラフィック軽減のため、東京を移動中の移動局が“TK1-1”を使用するという使い方。  
移動局が停車中に発信したビーコンは、かなり遠方のデジピーターでもデコードされます。関東などでは中狭域デジピーターが不必要に多く存在していますので、これら多くの遠方デジピーターがこの移動局停車中のビーコンに反応しないようにするための運用方法です。
- (2) 静岡から関東の東京の各局にメッセージを送りたい場合  
相手先コールはグループコールの”TOKYO”を用います。  
“KA1-1, TK1-1”で、遠笠山を経由して東京に拡散されます。
- (3) 海老名のJA1RBY-9が緊急連絡があり、東京都を走行中のJF1AJE-9と確実にリンクを取りたい場合。(携帯を使うとかはなし!)  
“WIDE1-1, TOKYO2-2”これはトラフィック増となりますが、緊急であり常用

ではないので、APRSの本質に反しません。

SSn-Nをより有効活用するためには、グループ機能を併用します。JAPRSXメンバーはグループコールに“JAPRSX”を設定していますが、さらに東京の局は“TOKYO”など、所属都道府県もグループ設定すると、上記のような運用が可能になります。

東京の誰かを知りたいときの相手先コールは、“TOKYO”です。